

2023年度

環境経営レポート

対象期間 : 2023年1月～2023年12月
2017年版EA21ガイドライン対応



Kaneko MediX, inc.
金子メディックス株式会社

金子メディックス株式会社 : Kaneko MediX, Inc.

作成日 : 2024年7月25日

2023年度

環境経営レポート [目次]

1. 組織の概要，認証，登録の対象範囲	1
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営目標と実績	5
4. 次年度(2024年度) 環境経営目標及び環境経営計画	7
5. 2023年度環境経営計画と実績	9
6. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	11
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	12

1. 組織の概要

1-1. 事業所名及び代表者氏名

会 社 名 : 金子メディックス株式会社
代表者氏名 : 代表取締役 坂下武芳

1-2. 所在地

本 社 : 栃木県那須塩原市槻沢342-17
本社工場 : 栃木県那須塩原市槻沢342
槻沢工場 : 栃木県那須塩原市槻沢286-3
乃木工場 : 栃木県那須塩原市新南163-355

1-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

管理責任者 : 専務取締役 坂下 龍志
担当者 : EA21推進室長 新井田 信也
連絡先 : 本社 / Tel : 0287-36-6688

1-4. 事業の内容

医療用注射針の製造・販売

1-5. 事業の規模

設立年月日 : 昭和47年 6月1日
資本金 : 95,000,000円
従業員数 : 233名 (2023年12月 正社員・パート含む)
敷地面積 : 本社工場 7,842 m²
 : 槻沢工場 4,093 m²
 : 乃木工場 3,515 m²

1-6. 対象範囲

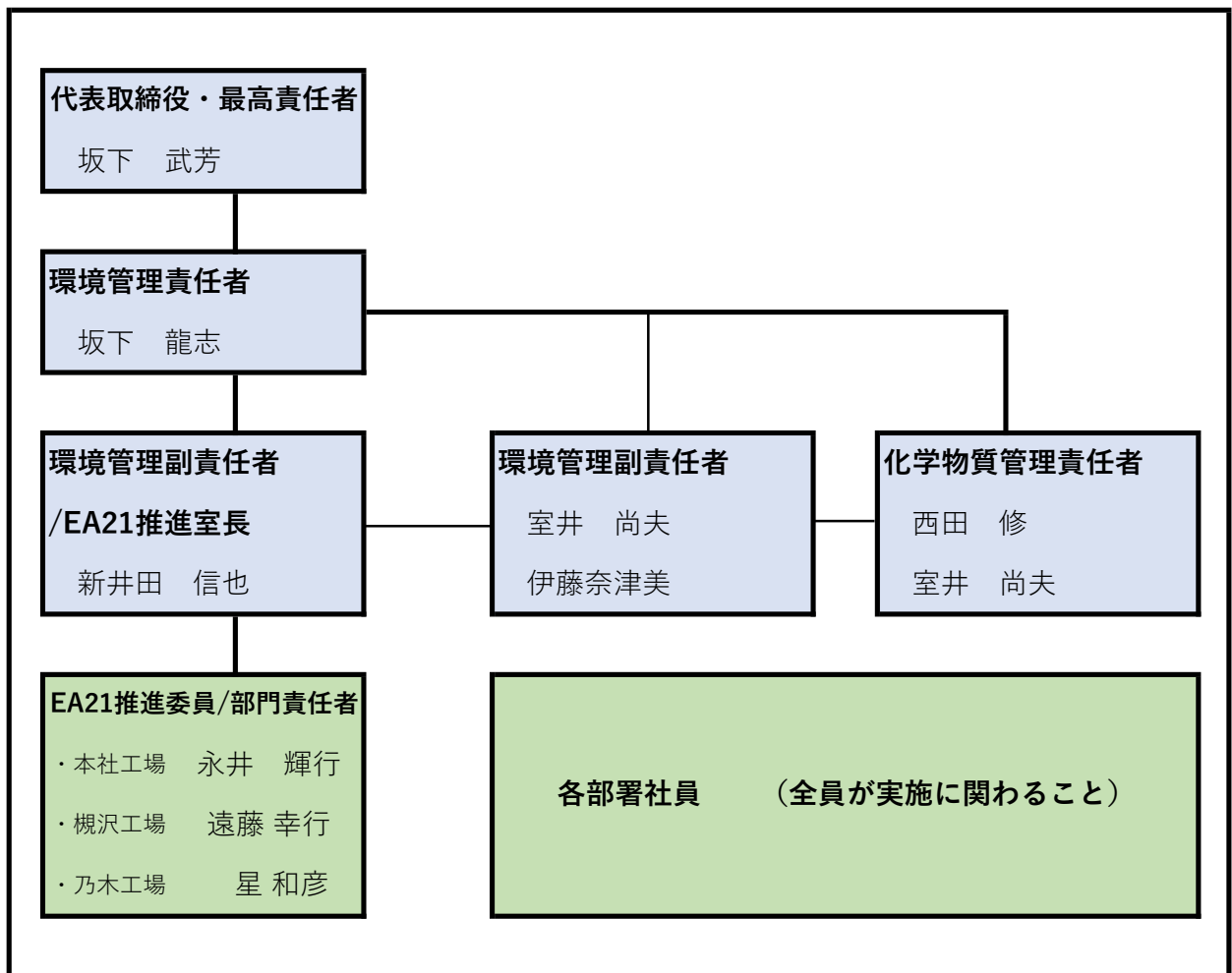
① 対象範囲

対象範囲は、全組織（本社工場、槻沢工場、乃木工場）・全事業活動を、認証の対象としている。

② 環境経営レポートの対象取組期間

2023年1月 ～ 2023年12月 （12ヶ月間）

③ 実施体制図



④ 役割と責任

最高責任者/ 環境管理責任者	・環境管理責任者、環境管理副責任者、化学物質責任者を任命する。
	・経営における課題とチャンスを整理し明確にする。
	・環境経営方針を制定する。
	・推進に必要な要因、技術、資金等の資源を準備する。
	・環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する。
	・環境経営システムの全体評価と見直し・指示を行なう。
環境管理副責任者/ 化学物質 管理責任者	・環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する。
	・環境への負荷及び取り組みの自己チェックの実施リーダー
	・環境経営目標及び活動計画を策定し、環境管理責任者及び社長の承認を得る。
	・環境経営目標及び活動計画の達成状況や実施状況の確認と評価を行ない、環境管理責任者及び社長に報告する。
	・環境関連法規の取りまとめ、最新版の維持管理及び順守状況の確認をする。
	・外部からの苦情や要望を受け付ける窓口。
	・EA推進委員候補者推薦、任命する
	・必要な文書、記録を管理する。
EA21推進委員/ 部門責任者 各部署社員	・部門ごとの活動計画を策定し、実施状況、達成状況を把握し、環境管理責任者及び環境管理副責任者に報告する。
	上記は、必要に応じて改善する。
	・部門ごとの教育訓練の実施リーダー。
	・環境苦情や問題が発生したら環境管理責任者、副責任者に報告し、必要な処置をとる。
	・環境活動計画の実行担当者として活動する。
	・システムで定めたルール、取り組み事項を自発的、積極的に実施する。
	・自身の業務が環境改善とどのように関連するか自覚し、認識を高める。

金子メディックス株式会社 環境方針

基本方針

金子メディックスは、持続可能な社会の実現に、かけがえのない地球環境の保全に努めて参ります。
たとえ小さな存在である私たちであっても、生産活動に必要なインプットの材料、エネルギー、水、紙、化学物質を利用し、アウトプットには製品の他、排水、産業廃棄物などが生じ、それらの環境負荷を把握し、環境汚染を起こさないために法令遵守のうえで、医療用注射針の生産活動を通じて生じる環境負荷の継続的改善に努めます。

活動方針

- 1) 生産活動に係る法令遵守のうえ、環境保全と向上に努めます。
主な対象法令には水質汚濁防止法、化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）、労働安全衛生法、騒音規制法があります。
- 2) 生産のインプットである材料、エネルギー、水、化学物質、用紙などの環境負荷要因を把握し、生産活動の結果としてアウトプットになる排水と規制物質、廃棄物処分とリサイクル、およびPRTR規制物質の把握のうえ、環境負荷となるそれらの使用の低減に努めます。
- 3) 環境負荷低減活動の重点テーマとして
 - ・ 水産資源に影響を受けない水処理と安全な排水管理の維持
 - ・ 作業環境内の化学物質の規制の準拠・騒音の規制の準拠
 - ・ 二酸化炭素削減活動
 - ・ 電力消費デマンド管理と使用電力の削減
 - ・ 廃棄物の削減とリサイクル
 - ・ 紙利用の削減
- 4) 環境方針の社員への周知と環境保全意識の啓発活動

金子メディックス株式会社

代表取締役 坂下武芳

2021年1月18日

3. 環境経営目標と実績 (1/2)

生産のインプットである材料、エネルギー、水、化学物質、用紙などの環境負荷要因を把握し、生産活動の結果としてアウトプットになる排水と規制物質、廃棄物処分とリサイクル、およびPRTR規制物質の把握のうえ、環境負荷となるそれらの使用の低減に取り組めます。

1) 評価方法

- ・ 原単位で、評価する。
- ・ 原単位 とは、次の通りとする。

$$\text{原単位} = \frac{\text{総 量 [kg, m}^3, \text{L, トン]}}{\text{売上高 [円]}}$$

2) 削減の目標値

- ・ 2023年は、基準年(2020年)に対して『6%』の削減を目指します。
- ・ 原単位では、総量の全体が把握出来ないので、**総量併記で同時に評価** する。

3) 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

- 当社の「価値生産活動」の中で不良の削減、工程改善、生産性向上等を行っており環境負荷の改善に大きく関係している。
- これらの取組は品質管理システムのISO13485の中で目標を定めて活動しているのでEA21の環境経営目標には設定はしていない。

4) 2020年を基準とした、中期の環境経営目標の策定

表3.1及び表3.2による。

表3.1 二酸化炭素の削減目標と実績

活 動	対象項目(年間)	2020年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率 (目標)	判 定	2024年度目標	2025年度目標
		(2020年1月～ 2020年12月)	(2023年1月～ 2023年12月)	(2023年1月～ 2023年12月)			(2024年1月～ 2024年12月)	(2025年1月～ 2025年12月)
二 酸 化 炭 素 削 減 に 関 係 す る 項 目	削減目標及び実績	基準年(2020年)	基準年 - -6%	実 績 値			基準年 - -8%	基準年 - -10%
	電気使用量(単位:KWh)	1,710,060 kWh	1,607,456 kWh	1,900,981 kWh	111%	×	1,573,255 kWh	1,539,054 kWh
	└ 二酸化炭素[CO2-t]	761 t	715 t	846 t				
	原単位(KWh / 百万円)	607 -	570	531	88%	○	558	546
	削減目標及び実績	基準年(2020年)	基準年 - -6%	実 績 値			基準年 - -8%	基準年 - -10%
	ガソリン使用量(単位:L)	9,705 L	9,123 L	9,417 L	97%	×	8,929 L	8,735 L
	└ 二酸化炭素[CO2-t]	22.5 t	21.2 t	21.8 t				
	原単位(L / 百万円)	3.44 -	3.24	2.63	76%	○	3.17	3.10
	削減目標及び実績	基準年(2020年)	基準年 - -6%	実 績 値			基準年 - -8%	基準年 - -10%
	LPガス使用量(単位:m ³)	7,906 m ³	7,432 m ³	7,640 m ³	97%	×	7,274 m ³	7,115 m ³
	└ 二酸化炭素[CO2-t]	49.1 t	46.2 t	47.4 t				
	原単位(m ³ / 百万円)	2.80	2.64	2.13	76%	○	2.58	2.52
	削減目標及び実績	基準年(2020年)	基準年 - -6%	実 績 値			基準年 - -8%	基準年 - -10%
	灯油使用量(単位:L)	39,518 L	37,147 L	38,740 L	98%	×	36,357 L	35,566 L
	└ 二酸化炭素[CO2-t]	98.4 t	92.5 t	96.5 t				
	原単位(L / 百万円)	14.0	13.2	10.8	77%	○	12.9	12.6
	二酸化炭素総排出量 (単位:CO2-t)	基準年(2020年) 931 t	基準年 - -6% 875 t	実 績 値 1,012 t	109%	×	基準年 - -8% 857 t	基準年 - -10% 838 t
	原単位(CO2-t / 百万円)	0.33 -	0.31	0.28	86%	○	0.30	0.30

※ 東京電力:2019年CO₂排出係数

電気事業者の調整後排出係数: **0.445** KgCO₂ / KWh を使用。

【判定基準】

基準年比 **6%** 削減の場合

【達成率】

X > 94 : ×

X ≤ 94 : ○

$$\text{達成率} = \frac{\text{実 績}}{\text{基準年}} \times 100$$

3. 環境経営目標と実績 (2/2)

表3.2 その他の削減目標と実績

	対象項目(年間)	2020年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率 (目標)	判定	2024年度目標	2025年度目標
		(2020年1月～ 2020年12月)	(2023年1月～ 2023年12月)	(2023年1月～ 2023年12月)			(2024年1月～ 2024年12月)	(2025年1月～ 2025年12月)
廃棄物削減に関する項目	【特別管理を除く】 産業廃棄物 (単位:t)	170 t	基準年 - -6% 160 t	実績値 184 t	108%	×	基準年 - -8% 156 t	基準年 - -10% 153 t
	原単位 (トン / 億円)	6.03 -	5.67	5.14	85%	○	5.55	5.43
	【特別管理】 産業廃棄物 (単位:kg)	840 kg	基準年 - -6% 790 kg	実績値 670 kg	80%	○	基準年 - -8% 773 kg	基準年 - -10% 756 kg
	原単位 (kg / 億円)	29.8 -	28.0	18.7	63%	○	27.4	26.8
	対象項目(年間)	2021年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率	判定	2024年度目標	2025年度目標
	一般廃棄物 (単位:t)	12.8 t	基準年 - -4% 12.3 t	実績値 13.4 t	105%	×	基準年 - -6% 12.0 t	基準年 - -8% 11.8 t
	原単位 (トン / 億円)	0.42 -	0.40	0.37	89%	○	0.39	0.39
	対象項目(年間)	2020年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率	判定	2024年度目標	2025年度目標
	塩化第二鉄 単位:kg	13,840 kg	基準年 - -6% 13,010 Kg	実績値 12,680 kg	92%	○	基準年 - -8% 12,733 kg	基準年 - -10% 12,456 kg
	原単位 (Kg / 百万円)	4.91 -	4.61	3.54	72%	○	4.52	4.42
化学物質使用量削減の項目	塩化メチレン 単位:kg	11,000 kg	基準年 - -6% 10,340 Kg	実績値 8,400 kg	76%	○	基準年 - -8% 10,120 kg	基準年 - -10% 9,900 kg
	原単位 (Kg / 百万円)	3.90 -	3.67	2.35	60%	○	3.59	3.51
	対象項目(年間)	2020年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率	判定	2024年度目標	2025年度目標
水使用量削減	上水道 水量(単位:m ³) 各工場合算で算出	3,168 m ³	基準年 - -6% 2,978 m ³	実績値 3,294 m ³	104%	×	基準年 - -8% 2,915 m ³	基準年 - -10% 2,851 m ³
	原単位 (m ³ / 億円)	112 -	106	92.0	82%	○	103	101
	対象項目(年間)	2022年度基準	2023年度目標	2023年度実績	達成率	判定	2024年度目標	2025年度目標
	地下水量(単位:m ³) 2021年10月から計量開始	45,274 m ³	基準年 - -2% 44,369 m ³	実績値 37,089 m ³	82%	○	基準年 - -4% 43,463 m ³	基準年 - -6% 42,558 m ³
	原単位 (m ³ / 百万円)	13.6 -	13.3	10.4	76%	○	13.1	12.8
	地下水							

【判定基準】 基準年比 **6%** 削減の場合

- ・ 地下水量は、計量器取付が2021年9月なので、計量開始が2021年10月から供用開始。
- ・ 一般廃棄物は、2021年度から計量開始。

X > 94 : ×
X ≤ 94 : ○

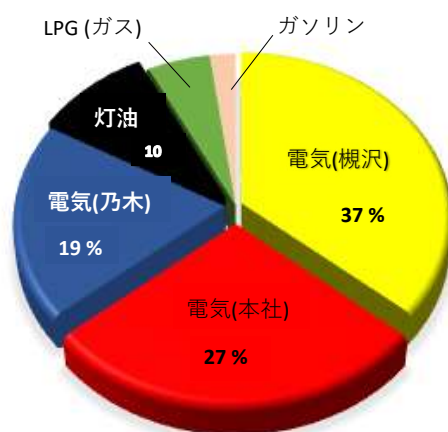


図 3.1 二酸化炭素排出量の割合

図 3.1より

- ・ CO₂ 排出量全体の約80% が電気が占めている。
- ・ このことから、電気使用量の削減が一番有効である事が分かる。

4. 次年度(2024年度) 環境経営目標及び環境経営計画

(1) 二酸化炭素排出量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2024年度の二酸化炭素排出量削減に関する環境目標は、表4.1 による。

表4.1 二酸化炭素排出量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
電気使用量	[総 量] 1,710,060 kwh	1,573,255 kwh	(基準年比 8% 削減)	・空調温度の適正化	継 続
	原単位 607 kwh/百万円	558 kwh/百万円	基準年比 8% 削減	・照明器具の『L E D』化	継 続
	二酸化炭素排出量 761 t	700 t	-	・エアコン・フィルターの定期清掃	継 続
	・デマンドの活用で、最大電力量を抑え電力量の削減と電気料金の低減を検討する。(次年度継続) ・とちぎ省エネお助け隊の活用 (2022年12月16日実施: 槻沢工場)				
ガソリンの使用量	[総 量] 9,705 L	8,929 L	(基準年比 8% 削減)	・空気圧の定期点検及び走行距離の把握 (月毎)	継 続
	原単位 3.44 L/百万円	3.17 L/百万円	基準年比 8% 削減	・エコドライブの推進	継 続
	二酸化炭素排出量 22.5 t	20.7 t	-	・共用自転車の活用	継 続
	製品の数量増加と運搬の・運行記録(ログ)で管理出来るか検討する。(次年度継続)				
L P ガス使用量	総量 7,906 m ³	7,274 m ³	(基準年比 8% 削減)	・生産の空き時間(待機)には、強火から弱火にする。	継 続
	原単位 2.80 m ³ /百万円	2.58 m ³ /百万円	基準年比 8% 削減	・給湯器の設定温度見直し	継 続
	二酸化炭素排出量 49.1 t	45.2 t	-		
	生産設備の用途のみ[暖房なし]。				
灯油使用量	総量 39,518 L	36,357 L	(基準年比 8% 削減)	・暖房の温度設定順守	継 続
	原単位 14.0 L/百万円	12.9 L/百万円	基準年比 8% 削減	・不在時の消火(暖房)	継 続
	二酸化炭素排出量 98.4 t	90.5 t	-		
	・ボイラーは、使用時のみ点火。暖房の需要が全体の半分(冬季)で、夏季は工程(ボイラー)のみ使用。				
二酸化炭素総排出量	原単位 0.33 t/百万円	0.30 t/百万円	基準年比 8% 削減		
	総量 931 t	857 t	(基準年比 8% 削減)		

(2) 廃棄物削減に関する項目

2020年を基準年とする、2024年度の廃棄物削減に関する環境目標は、表4.2 による。

表4.2 廃棄物削減に関する項目

	基準年 [2021年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
一般廃棄物 [可燃物等]	総量 12.8 t	12.0 t	(基準年比 6% 削減)	・分別の徹底	継 続
	原単位 [t/億円] 0.42	0.39 t/億円	基準年比 6% 削減		
	【所 見】 ポリ缶に関して: 薬品のポリ缶だが、海外からの輸入品なので、再利用が出来ないので廃棄処分になる。				
	基準年 [2020年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
産業廃棄物 (特別管理を除く)	総量 170 t	156 t	(基準年比 8% 削減)	・脱水機の[ろ板]のメンテナンス	継 続
	原単位 [t/億円] 6.03	5.55 t/億円	基準年比 8% 削減	・老朽化した、[ろ布]の更新	継 続
				・凝集性の向上(適正な薬剤の添加)	継 続
				・分別の徹底	継 続
産業廃棄物 (特別管理)	【所 見】 汚泥の含水率を向上させるには、老朽化した[ろ布]の更新、及び脱水機のメンテナンスを実施する。				
	総量 840 kg	773 kg	(基準年比 8% 削減)	・電解研削盤(EMG)の適切な電解液の管理	継 続
	原単位 [kg/億円] 29.8	27.4 kg/億円	基準年比 8% 削減		
	【所 見】 工程で生じる電解液(六価クロム含有)を、産廃処理。				

4. 次年度(2024年度) 環境経営目標及び環境経営計画

(3) 化学物質使用量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2024年度の化学物質使用量削減に関する環境目標は、表4.3 による。

表4.3 化学物質使用量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
塩化第二鉄 使用量	総量 13,840 kg	12,733 kg	(基準年比 8% 削減)	・代替品の検討及び推進 (ポリ鉄)	継続
	原単位 [kg/百万円] 4.91	4.52 kg/百万円	基準年比 8% 削減	・溶液の適正な添加で、凝集性を向上。	継続
	【所見】 塩化鉄(III)からポリ硫酸第二鉄 (ポリ鉄) の切替を検討。				
塩化メチレン 使用量	総量 11,000 kg	10,120 kg	(基準年比 8% 削減)	・蒸留再生品の利用を検討する。	継続
	原単位 [kg/百万円] 3.90	3.59 kg/百万円	基準年比 8% 削減		
	【所見】 揮発性の大きい物質で、常温でも気化する。気化した物質は、冷却する事で液体になる。 当該の二次使用 (再利用) に検証が必要か確認する。 [QA]				

(4) 水使用量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2024年度の水使用量削減に関する環境目標は、表4.4 による。

表4.4 水使用量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
上水道 使用量	総量 3,168 m ³	2,978 m ³	(基準年比 8% 削減)	生産工程で使用了した水を浄化し、河川に戻す事で、水消費量	継続
	原単位 [m3/億円] 112	106 m3/億円	基準年比 8% 削減	の削減 に取り組む。	
	【所見】				
	基準年 [2022年]	環境目標 [2024年]		取組内容 [2024年]	備考
地下水 使用量	総量 45,274 m ³	43,463 m ³	(基準年比 4% 削減)	生産工程で使用了した水を浄化し、河川に戻す事で、水消費量	
	原単位 [m ³ /百万円] 13.6	13.1 m3/百万円	基準年比 4% 削減	の削減 に取り組む。	
	【所見】 2022年1月から計量開始。				

5. 2023年度環境経営計画と実績 (1/2)

(1) 二酸化炭素排出量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2023年度の二酸化炭素排出量削減（基準年 6 %）に関する項目は表5.1 による。

表5.1 二酸化炭素排出量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2023年]	実績 [2023年] / 達成率(%)	判定	取組内容	結果	評価
電気使用量	〔総量〕 1,710,060 kwh	1,607,456 kwh	1,900,981 kwh	-	-	×	守られてない。
	原単位 607 kwh/百万円	570 kwh/百万円	531 kwh/百万円	88%	○	○	球切れした時、電球からLEDに交換
	二酸化炭素排出量 761 t	715 t	846 t	111%	×	○	5S活動で実施中。
・デマンドの活用で、最大電力量を抑え電力量の削減と電気料金の低減を検討する。（次年度継続） ・とちぎ省エネお助け隊の活用（2022年12月16日実施）							
ガソリンの使用量	〔総量〕 9,705 L	9,123 L	9,417 L	-	-	○	定期的に実施されている。
	原単位 3.44 L/百万円	3.24 L/百万円	2.63 L/百万円	76%	○	△	法令順守、アイドリングストップ等
	二酸化炭素排出量 22.5 t	21.2 t	21.8 t	97%	×	△	本社々機況の移動は、自転車、徒歩移動。（原則）
2023年4月より、運搬の・運行記録（ログ）で走行距離を」把握している。							
LPガス使用量	総量 7,906 m³	7,432 m³	7,640 m³	-	-	○	離席、工程間合い（待機時間）時には、ガスを止める。
	原単位 2.80 m³/百万円	2.64 m³/百万円	2.13 m³/百万円	76%	○		
	二酸化炭素排出量 49.1 t	46.2 t	47.4 t	97%	×		
生産設備の用途のみ「暖房なし」。							
灯油使用量	総量 39,518 L	37,147 L	38,740 L	-	-	×	手順書が室温 [20-22℃] の設定を、要見直し。離席時には、暖房を止める。
	原単位 14.0 L/百万円	13.2 L/百万円	10.8 L/百万円	77%	○	△	短時間の離席では、暖房は止めない傾向有。
	二酸化炭素排出量 98.4 t	92.5 t	96.5 t	98%	×		
・ボイラーは、使用時のみ点火。暖房の需要が約半分（冬季）で、夏季は工程（ボイラー）のみ使用。							
二酸化炭素総排出量	原単位 0.33 t/百万円	0.31 t/百万円	0.28 t/百万円	86%	○	○	生産量が増加すれば、比例して電力量等が増加しますが、原単位ベースで見た場合それなりの効果があったと考えられます。
	総量 931 t	875 t	1,012 t	109%	×		

(2) 廃棄物削減に関する項目

2020年を基準年とする、2023年度の廃棄物削減（基準年 6 %）に関する項目は表5.2 による。

但し、一般廃棄物（可燃物）は、2021年1月から計量開始の為、基準年が「2021年」となります。

表5.2 廃棄物削減に関する項目

	基準年 [2021年]	環境目標 [2023年]	実績 [2023年] / 削減率(%)	判定	取組内容	結果	評価
一般廃棄物 〔可燃物等〕	総量 12.8 t	12.3 t	13.4 t	105%	×	×	分別の徹底
	原単位 0.42 t/億円	0.40 t/億円	0.37 t/億円	89%	○		
	【所見】 分別して、資源として分類する。						
	基準年 [2020年]	環境目標 [2023年]	実績 [2023年] / 削減率(%)	判定	取組内容	結果	評価
産業廃棄物 (特別管理を除く)	総量 170 t	160 t	184 t	108%	×	○	メンテ用ろ板が必要。
	原単位 6.03 t/億円	5.67 t/億円	5.14 t/億円	85%	○	△	定期的に洗浄しているが、限度がある。
						○	高分子凝集剤の過剰添加は、ろ布の寿命が短い。（ろ布洗浄で復活）
【所見】 汚泥の含水率を向上させるには、老朽化した「ろ布」の更新、及び脱水機のメンテナンスを実施する。							
産業廃棄物 (特別管理)	総量 840 kg	790 kg	670 kg	80%	○	△	・電解液の比重管理
	原単位 29.8 kg/億円	28.0 kg/億円	18.7 kg/億円	63%	○		・EMG電解液に、六価クロムが含有している。
							・電解液の交換は、比重計で管理
【所見】 工程で生じる電解液（六価クロム含有）を、産廃処理(特管)。							
							・生産数が増すと、産廃(特管)数も増す。

【判定基準】 X > 94 : ×
X ≤ 94 : ○

【結果】 達成 : ○
現状維持 : △
未達成 : ×

7. 2023年度環境経営計画と実績 (2/2)

(3) 化学物質使用量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2023年度の化学物質使用量削減（基準年6%）に関する項目は表5.3による。

表5.3 化学物質使用量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2023年]	実績 [2023年] / 削減率(%)	判定	取組内容	結果	評価
[PRTR] 塩化第二鉄 使用量	総量 13,840 kg	総量 13,010 kg	総量 12,680 kg	92%	○	ポリ硫酸第二鉄（ポリ鉄）の検討	○ 既存の排水施設で対応可能。 ピーカテストでは、問題ない。
	原単位 4.91 kg/百万	原単位 4.61 kg/百万	原単位 3.54 kg/百万	72%	○	溶液の適正な添加	○ 含水率向上に貢献
	【所見】凝集剤の適切な使用						
[PRTR] 塩化メチレン 使用量	総量 11,000 kg	総量 10,340 kg	総量 8,400 kg	76%	○	気体→冷却→液体の循環で冷却の強化 で、大気中に放出する量が減少し、 再利用出来る。	○ 当該の再生利用のバリデーションが確立 していないので、未実施。
	原単位 3.90 kg/百万	原単位 3.67 kg/百万	原単位 2.35 kg/百万	60%	○	・代替品の検討	× 該当なし
	【所見】揮発性の大きい物質で、常温でも気化する。気化した物質は、冷却する事で液体になる。当該の二次使用（再利用）は、問題ない						

(4) 水使用量削減に関する項目

2020年を基準年とする、2023年度の水使用量削減（基準年6%）に関する項目は表5.4による。

但し、地下水使用量は、2022年1月から計量開始の為、基準年が[2022年]となります。

表5.4 水使用量削減に関する項目

	基準年 [2020年]	環境目標 [2023年]	実績 [2023年] / 削減率(%)	判定	取組内容	結果	評価
上水道 使用量	総量 3,168 m³	総量 2,978 m³	総量 3,294 m³	104%	×	・節水意識の向上	○ 節水の意識向上で、目標を達成。
	原単位 112 m³/億円	原単位 106 m³/億円	原単位 92.0 m³/億円	82%	○	・漏水点検の実施	○ 逆に、今まで『ムダ』が多かったと言える。
	【所見】節水の効果が反映されました。						
地下水 使用量	総量 45,274 m³	総量 44,369 m³	総量 37,089 m³	82%	○	・生産工程で使用した水を浄化し、河川に 戻す事で、水消費量の削減に取組む。	○ 水資源の有効活用で、排水を浄化して河川に放流
	原単位 13.6 m³/百万円	原単位 13.3 m³/百万円	原単位 10.4 m³/百万円	76%	○	・節水意識の向上	○ ポスター等で啓発発動
	【所見】2022年1月から計量開始。[基準年: 2022年]						

【判定基準】 X > 94 : × 【結果】 達成 : ○
X ≤ 94 : ○ 現状維持 : △
未達成 : ×

6. 環境関連法規の尊厳の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 環境関連法規への遵守評価の結果は、表6.1 による。

表6.1 環境関連法規への遵守評価

担当	法規等の名称	要求事項	遵守状況
全体	環境基本法	・公害防止・自然環境保全	○
		・廃棄物の適正な処理	○
		・再生資源等の利用	○
総務	労働安全衛生法	・安全管理者、衛生管理者の選任	○
		・リスクアセスメント	○
		・労働災害防止のための具体的措置	○
	消防法	・特定防火対象物に該当するので、	○
		・防火管理者の選任 が必須。	○
		・消防訓練	○
		・消防用設備等の点検	○
	振動規制法	特定施設設置届出	○
工務課	水質汚濁防止法 (水濁法)	・特定施設の届出が必要。	○
		・公害管理防止者の選任・届出	○
		・自主管理要領の継続	○
	廃棄物の処理及び清掃 に関する法律 (廃棄物処理法)	・廃棄物管理票(マニフェスト)	○
		・委託契約書	○
		・廃棄物保管場所の表示 と 保管管理	○
	浄化槽法	・「定期水質検査」(11条検査)	○
		・定期清掃(年1回)	○
		・保守点検(3カ月に1回)	○
	PRTR法	・該当する場合、排出量・移動量の報告	○
		・SDSの提供と周知	○
	フロン類の使用の合理化 及び管理の適正化に関 する法律	・代為フロンHFC (R410A)が対象	○
		・簡易点検 圧縮機の定格出力が、『7.5kw』未満に限る。	○
		・「点検の記録・記録の保存」	○

2) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年12月31日現在、環境関連法規制への違反、訴訟等はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直し記録

イ) 見直しの必要性判断と代表者の指示

環境経営方針	継 続
環境経営目標	継 続
環境経営計画	継 続
実施体制	継 続

ロ) 環境管理責任者の全体の評価

環境管理責任者の評価	当社のCO ₂ 排出量の約8割が、電気使用量である。その削減方法として、LED照明への更新を積極的に推進した。
	更に省エネを推進して、電気使用量の低減を考えて下さい。
	2023年度は、生産量の増加でCO ₂ 総排出量は109%の増加(基準年2020年比)ですが、原単位では86%(基準年比)でした。
2023年7月29日 専務取締役 坂下 龍志	この結果は、売上高が順調である事が主因であり、更なる改善等が必要である。

ハ) 代表者の全体の評価

代表者（社長）の評価	2023年度の電気使用量は、受注量の増加に伴い、工場稼働率の上昇により電気使用量が増加した。
	2020年基準年度から11%増加したが、原単位評価では12.5%減少。受注量の増加は、2025年度も3%程増加見込みの為、原単位の増加がないよう、電気使用量削減に
	省エネを積極的に推進するよう活動願います。
	ガソリン、LPガス、灯油は、2~3%減少、今後も減少活動に取り組んでいます。
2023年7月29日 代表取締役 坂下 武芳	CO ₂ 削減量は、原単位で2020年度比、85%以下として活動願います。